

## 2020年度 美術学部 芸術学科 出題意図

### ◆外国語

長文を全文和訳させることで、その論旨を正しく把握できるかどうかを問うています。

#### 英語 問題 1

エッチング(銅版画)の技法に関する文章です。エッチングの凹版が、酸と防蝕剤を塗った銅板の化学作用によって作り出されることが説明されています。その作業は非常に複雑なため、刷りと同様に専門の職人に任せることが通常とされます。複雑な手順は職人が代行してくれるため、版画家は銅板に線を引くだけとなり、修練を積んでいないアマチュア版画家に適した凹版技法だという大意が取れることが重要です。biting of the plate という表現は、動詞「bite」を「噛む」とそのまま訳すのではなく、文脈から「腐蝕」というように訳出できるかどうか評価のポイントとなります。最後の二文では、版画は実際に作品が刷り上がるまで作品の出来具合が予測できないため、芸術家たちを喜ばせたり落胆させることが語られています。版画を実際に体験したことがあれば、この文章も容易に理解できるはずです。文法的に複雑な箇所はありません。

#### 英語 問題 2

Impressionism(印象主義あるいは印象派)の社会的背景を論じた文章からの出題です。その作品ではしばしば市民たちが屋外で娯楽に興じる場面が、自由な視点や変化に富む自然描写とともに描かれます。しかしそれはただそうした情景の美しさを表現しようとしたとはかぎらず、むしろ自由で一過的な情景を描くことには、近代社会の中で新しく人々の置かれた堅苦しい立場に反発し、そこから解放された自由な人間のありかたを示そうという“moral aspect(道徳的な側面)”があった、というのが問題文の主旨です。

やや難解な内容ですが論理の展開そのものは素直です。第二文と最後の一文のように従属節がいくつも連なる長いセンテンスについても、各語の登場順に意味を把握してゆけば理解できます。その理解を訳文に反映させてゆくことが高得点の鍵になります。また抽象度の高い単語が続きますが、こうした単語についての理解も必要です。

#### 仏語 問題 1

ロシア出身の画家、ワシリー・カンディンスキーが、抽象絵画を着想するに至ったきっかけとされる有名なエピソードを記述した文章です。そのエピソードは、帰宅したカンディンスキーが、何が描かれているのか分からないが、言葉にしがたいほど素晴らしい絵を見つけて駆け寄ったところ、それは横倒しの状態で立てかけられていた自分の作品だったというものです。内容も、使われている語彙も特に難解なものではありませんが、単純過去と半過去の組合せによる出来事の推移の表現、出来事が起こった際のカンディンスキーの状態を示す過去分詞や、細かいニュアンスを示す副詞による表現を理解していることが、情景を思い浮かべつつ内容を理解するために重要です。

#### 仏語 問題 2

問題文の大意はつぎのようになります。「絵画や彫刻で、現実にはただしたがってそれを機械的に複製しても、現実には劣るものにしかならない。いっぽう芸術家はじっさいにはなんらかの策術をもちいながら、それらしく現実を再現する。そうした画家や彫刻家の作品による現実の再現には、いやおうなく芸術家の個性が刻まれる。」

このようにとりたてて難解な主張ではありませんから、その大意にそって各文の意味を論理的に把握し、訳出することが得点の鍵になります。とりわけ *Quel est l'artiste qui...* といった反語表現 (...というのはどんな芸術家だろうか〔、いやそんな芸術家などいない〕) や、*la lumière des tableaux les plus lumineux est à peu près au jour réel comme une bougie est au soleil* といった最上級と類比の表現が並存する文の解釈のところで混乱しないようにすることがたいせつです。また *tricher, recettes, accommodations, artifices, habileté* といったたがいに近い意味を持つ単語の含意を正確に把握できていれば、さらに高得点につながります。

## ◆地理歴史 日本史

### 日本史 問題 1

16 世紀後半から 20 世紀前半に至る諸外国との貿易における生糸の輸入から輸出への変遷に関連する歴史的  
事実の知識を問うことと、近世中期から後期にかけての染織文化・産業の地方への伝播、北関東を中心とした養  
蚕業・製糸業・織物業の発達など、生糸の近代を準備した近世の営為を論じることの 2 点が、この問題の主たる出  
題意図です。

提示した用語のほか、ポルトガル、オランダ、中国(明・清)、鎖国政策、白糸、和糸、足利、桐生、座繰製糸、器  
械製糸、欧米、外貨獲得、ナイロンなども、対外交易の展開やその背景にある文化の伝播、産業の発展などを論  
じる上で関連する用語です。

なお、論述にあたって、「製糸」と「紡績」を混同しないことにも注意が必要です。

### 日本史 問題 2

重要語句(人名、事項など)の説明を求める問題です。ある程度の長さの記述問題ですので、知識の正確さに  
加えて、文章の読みやすさ、論理的明快さ、表現力も評価の対象となります。

#### (1) 士族の反乱

明治初年に各地で起こった不平士族の反乱。その原因と具体的事例への知識と理解を問う問題です。明治維  
新後の新政府による版籍奉還(明治 2 年)、廃藩置県(同 4 年)、秩禄処分、廃刀令(ともに同 9 年)など、相次ぐ  
施策で特権的身分と経済基盤を失った士族の、新政府への不満が原因。明治 7 年の佐賀の乱、9 年の熊本・神  
風連の乱、福岡・秋月の乱、山口・萩の乱(前原一誠)、そして最大の同 10 年鹿児島(西郷隆盛)の西南戦争  
が代表的事例です。維新遂行の中心勢力だった地での反乱が少なくないことや、征韓論との関係、以後の自由民  
権運動との関係への言及も可能です。

#### (2) 書院造

日本建築の形式として、建物の構造や部分の構成がどのようなものであったのか、各部の名称や形態、また寝  
殿造との比較等をふまえながら記述すること、またその空間のあり方が絵画をはじめとするさまざまな芸術文化に  
どのような影響を与えたのかについて述べることを求めています。

#### (3) 井原西鶴

江戸前期の俳諧師。浮世草子作者。元禄文化を問う問題です。大阪に生まれ、上方を中心に発展した最初の  
町人文化・元禄文化を代表する文学者であること。西山宗因の談林派で俳諧師として活躍したのち、町人や武家、  
遊里を描いた浮世草子を執筆したこと。好色物の『好色一代男』『好色五人女』、武家物の『武道伝来記』、町人

物の『日本永代蔵』『世間胸算用』、雑話物の『西鶴諸国ばなし』等の代表作のあることなどが基本情報になります。背景としてのメディア(版本)の発達、同じく元禄文化を代表する松尾芭蕉、近松門左衛門、尾形光琳、菱川師宣などへの言及も可能です。

#### (4) 日本書紀

成立の時期、撰者、編纂にかかわったとされる人物名および内容の大まかな構成などを記したうえで、歴史書としてのあり方を記述することを求めています。歴史を通じてどのように捉えられてきたか、現代においてはどのような研究がなされているかなど、広い視野で論じられることがあればなお良いと考えます。

### ◆地理歴史 世界史

#### 世界史 問題1

この問題では、ナポレオン(ナポレオン1世、1769－1821)を軸として、政治的・社会的事象と文化的事象の密接な連関を説明することが求められています。まずは、軍人・政治家としてのナポレオンの足跡を辿ることが出発点になるでしょう。1896年のイタリア派遣軍司令官としての活動や、1799年のブリュメール18日のクーデタ、1804年の皇帝即位を経て、ヨーロッパのほぼ全域を支配下に置くに至る過程、そして、ロシア遠征の失敗(1812年)以降の没落の過程を記述する必要があります。

ナポレオンと文化の関わりを示すものとしては、まず、首席宮廷画家であるダヴィドによって1806年から1807年にかけて制作された《ナポレオンの戴冠式》を挙げることができます。ナポレオンによるヨーロッパ支配に対して、抵抗・反乱の動きが起りましたが、その様子を描いたものとしては、ゴヤによる作品《1808年5月3日》(1814年)があります。また、ナポレオンの侵攻にともなって各地で高まったナショナリズムの思想的表明として、1807年から1808年にかけて哲学者フィヒテによって行われた講演「ドイツ国民に告ぐ」に触れることも重要です。その他、ロゼッタ＝ストーンの発見(1799年)やナポレオン法典の制定(1804年)もナポレオンと文化の関わり例として挙げる事ができます。

いずれにせよ、ナポレオンの政治的・軍事的業績と同時代の文化的事象について、それらを並列的・羅列的に記述するのではなく、一体となって歴史の流れをなすものとして記述することが重要になります。

#### 世界史 問題2

重要語句(人名、事項など)の説明を求める問題です。ある程度の長さの記述問題ですので、知識の正確さに加えて、文章の読みやすさ、論理的明快さ、表現力も評価の対象となります。

#### (1) イエズス会

主に近世の宗教史の知識を問う問題で、16世紀(正確には1534年)に創設され、現在も活動を続ける修道会です。基本として、主要な創設者の名前(イグナチオ・デ・ロヨラやフランシスコ・ザビエル)、創設の時期、創設の歴史的な文脈(カトリック教会の内部改革)について答えましょう。さらに、組織の性格(教皇への服従、霊的修行、カトリック信仰の堅持など)、特徴的な活動(プロテスタント地域や海外での布教活動など)について記述しましょう。ザビエルをはじめとするイエズス会宣教師たちによる中国や日本での布教活動については、よく知られた歴史的出来事ですので、ぜひふれてもらいたいところです。

#### (2) ホメロス

ヨーロッパ古代の基本的な文化史的知識を問う問題で、古代ギリシャの著名な叙事詩人です。語句説明ですの

で、まずはこの詩人が生きた推定時期、知られている2つの作品(『イーリアス』と『オデュッセイア』)を答えることが第一です。さらに両作品の簡潔な内容が紹介できるといいですね。もう一步踏み込んだ知識としては、これらの叙事詩が古代ギリシャの社会でもった意義や、作者に関して見解が分かれている問題(この詩人が本当に実在した人格であるのかどうか)について記述することも、評価対象とします。

### (3)元曲

中国・元時代(元朝)の戯曲。背景、代表作等について記述することが望ましいと思われます。背景としては、元(モンゴル)は支配下の地域の文化や学芸に寛容であり、宋代から引き続き発展をとげたこと、都市の庶民文化が栄えたこと等。代表作としては『西廂記』『琵琶記』『漢宮秋』など。宋時代の詞よりも大衆的な性格をもつこと、モンゴル支配への抵抗を秘めた内容であること、各作品の内容や作者等について言及することも評価対象となります。

### (4)毛沢東

中華人民共和国を建国した中国共産党の指導者。1945年以前と以後の活動双方について記述し、個人的な業績だけでなく、史的背景とともに記述することが望ましいと思われます。以下、キーワードとなる事項を挙げておきます。満州事変によって日本の中国侵略が進むなか、国民政府は抗日よりも国内の統一を目指し、共産党を鎮圧しようとした。これに対して共産党は1931年に中華ソヴィエト共和国臨時政府を樹立、毛沢東が主席となり、長征を実行するなかで権力を蓄えたこと。そのほか日中戦争にいたる国共合作についての記述も評価対象となります。1949年に中華人民共和国の主席となり、中ソ友好同盟相互援助条約のもと、急速な社会主義化を進めたこと。第2次5か年計画では、大躍進政策にもとづいて人民公社を設けたものの、自然災害などにより失敗に終わり、一時、失脚したこと。中ソ対立のなかで、急進的な社会主義を緩和しようとする動きに反発し、毛沢東に忠誠を誓う紅衛兵を中心とし、劉少奇や鄧小平を追放したプロレタリア文化大革命(文化大革命)を行ったこと。四人組が台頭したが、毛沢東の死によって文化大革命が終結したこと等。社会に混乱が生じた一方で、日米との外交関係を結んだことも評価対象となります。

## ◆小論文

問題文に「今まで見た」とある通り、造形作品が想定されていますが、美術品に限らず、漫画や映像作品、演劇など広い対象から選んでもかまいません。まずは、自分が「衝撃を受けた」作品について簡潔に記述し、その時の感覚を伝えるような文章を書いてください。作品記述ばかりに比重を置きすぎると、概説的な知識の羅列になりがちですから、バランスを考慮すべきです。「衝撃」という言葉は、強く心を揺さぶられた体験を指しますが、決してきれいとか嬉しいといったいわゆる肯定的な感情だけでなく、不快感や悲しみ、怒りという否定的な感情について触れてもよいでしょう。また、その視覚体験が印刷物や映像などの複製メディアを通したものでかまわないとしたのは、生活環境や年齢にかかわらず鑑賞体験を論じられるためです。

## ◆鉛筆素描(石膏像)

今回の鉛筆素描では、代表的な石膏像のなかから、古代のヴィーナス首像(通称「パルテノンのヴィーナス」)が出題されました。これを、3時間で画用紙に鉛筆で素描します。出題の意図としては、石膏像の素描を通じて、対象の形態および明暗の調子の観察と再現、構図の取り方などの、基礎的な造形表現力を評価するための試験です。限られた時間で的確に石膏像を描写するためには一定の視覚的・造形的訓練が必要ですが、そうした能力を身につけることは、芸術学科の専門領域である美学・美術史の学習・研究にとっても貴重な素養となるのです。